

| | 項目 | 取組んだ内容 | 取組んだ成果 | |
|---|-------------------------------------|---|---|--|
| 地域 基盤 づくり | ①ビジョンづくり | ビジョンの検討 | 認知症地域支援体制の構築を目的とする本事業の実施を契機として認知症を始め虐待などへの対応を含む、高齢者のかかえる幅広い課題に対応したネットワークの構築を長期目標においた。 | |
| | ②認知症地域支援体制づくりにむけた総合的な企画 | 事業全体を一体的に進めるための総合的な企画立案 | 行政内関係課（介護保険課、高齢障害課、地域包括支援センター）と社協が一体となった事務局を設置し、事業計画を作成。 | これまで社会福祉協議会への委託事業では行政の関与が少なかったが、一体となった事務局の設置により行政が主体的に関わるようになった。 |
| | | 行政内部、事業関係者への事業の企画の浸透 | 第1回研修会を行政職員、民生委員を対象に開催し、事業の概要について周知を図った。（11月20日） | 行政職員、民生委員に一定程度周知が行えた。 |
| | ③推進組織づくり | コアチームの結成（事業を推進していく上で、中心になって企画したり運営するチーム） | 認知症支援検討委員会の設置、開催（9月4日、11月18日、3月19日予定、3回開催） ・高齢者あんしん・見守りネットワークのメンバー、役割について ・個人情報取り扱いについて | ・認知症高齢者の情報提供と情報管理の方法の課題の整理の抽出 ・情報の一元管理の方法、個人登録制度の推進についての議論を実施 |
| | | 関係部署や関係組織への働きかけ・調整 | 認知症支援検討委員会の設置要綱に基づき、平成21年3月31日を任期として、関係機関を通じ19名の委員に委嘱。 | （多種多様な団体から参加者を得た） 委員は、学識経験者、認知症介護経験者、保健医療関係、福祉関係者、警察・消防関係者、司法関係者、地域住民組織の関係者、商工農労働団体関係者、行政関係の中から委嘱又は任命 |
| ④コーディネーターの配置と活用 | 地域支援体制づくりをコーディネートしたり推進する人材の選定・配置 | 地域福祉圏域（行政の支所単位）に設置されているふくし相談支援センターの社会福祉士をコーディネーターとして選定し、ふくし相談支援センターの業務の一環として地域支援体制を推進する。 | 地域ケア会議などでの事業の趣旨説明やマップ掲載店舗リストアップについて、コーディネーターと行政各支所と連携しながら実施することが出来た。 | |
| ⑤ネットワークの基礎づくり | 地域の多様な関係者が認知症地域支援の必要性について一緒に学ぶ機会づくり | 第1回研修会（11月20日）テーマ：認知症の理解と対応について 対象者：民生委員・行政職員（約300名） アンケート結果 ・研修会に参加して良かった 99.5% ・今後も、こういう研修会があれば参加したい 96% ・認知症サポーターについて知っている 45% ・認知症サポーターを養成する講座があれば受講してみたい 56% 第2回研修会（ネットワーク結成式および記念講演） （3月12日予定）テーマ：認知症の理解と対応について（仮） 対象者：ネットワーク協力員 | 福祉保健関係以外の多様な事業所の関係者に対して、ネットワークへの参加を通じて、認知症地域支援の必要性を周知する機会が出来た。 | |
| | 多様な関係者が参画して地域支援を推進する組織づくり/活動支援 | 3月12日に高齢者あんしん見守りネットワーク結成式を開催予定。ネットワーク協力員に会員証としてステッカーを配布し、入口等外からよく見える箇所に貼付してもらう。 各支所地域ケア会議に本事業の趣旨の周知を図った。また地域資源マップ掲載店舗のリストアップについても同会議、民生委員の協力を得て行った。 | 高齢者あんしん見守りネットワークの構築。 地域ケア会議・民生委員にマップ掲載店舗のリストアップ作業にご協力いただくことにより、ネットワーク構築についての周知を図ることが出来た。 | |
| 地域 支援 体制 構築 に む け た 各 事 業 | ①地域資源マップ | 認知症支援に関係する地域資源のリスト化 | 地域ケア会議、民生委員の協力を得て、保健・医療・福祉の分野にとどまらず、スーパー商店等・JA・金融機関・交通機関等全てをリスト化し、どこまでの範囲を掲載するか検討した。 | 昼間、かならず人がいる事業所を優先し、コンビニエンスストア、ガソリンスタンド、大型店舗を含めリストアップした。 |
| | | 資源マップの作成 | リストアップした掲載事業所リストに基づき、地域資源マップを作成中。 | 支援を要する高齢者を発見したときの連絡先をどのようにするのか、など連絡通報支援体制について検討委員会での議論となった。 |
| | | 資源マップを活かしたネットワーク作りの推進 | 資源マップ掲載予定事業所、各団体に対して、事業の趣旨を説明するとともに、マップへの掲載、高齢者あんしん見守りネットワークへの協力を依頼。 | 資源マップ掲載事業所の協力を得て、あんしん見守りネットワークを構築。 |
| ②認知症ケア等のサポート | コーディネーターを活かした地域での相談・支援・検討会等の実施 | 地域福祉圏域（行政の支所単位）に設置されているふくし相談支援センターの社会福祉士をコーディネーターとして選定し、総合相談業務の一環として相談支援を実施。 | コーディネーターの設置について周知をしなかったため、これまでどおりの相談支援業務の一環にとどまっている。 | |
| | 地域資源を活かした地域での相談・支援・検討会等の実施 | 地域福祉圏域で毎月1回開催される「地域ケア会議」により、認知症関連事例について検討を行い、解決に向けての関係機関の協力を得る。 | 地域ケア会議にて地域資源マップの掲載店舗のリストアップ作業を行ったことにより、地域ケア会議も認知症支援のための一つの機関であるという意識づけが出来た。 | |
| ③見守りネットワークの構築 | 地域資源を活かした見守りネットワークの整備 | 検討委員会において高齢者あんしん見守りネットワークの協力員の範囲の検討。 | 地域資源マップ協力店舗、事業所、スーパー・商店等、金融機関、警察、民生委員、行政、社会福祉協議会を第1次構成メンバーとして今年度に結成。 | |